

博物館での資料収集・保管事業

県立博物館

博物館にとっての資料とは

博物館の業務の一つに「資料収集・保管」があり、当館では主に県内産の自然資料を収集・保管しています。資料には実物標本などの一次資料と、写真や動画、レプリカなどの二次資料があります。収集した資料は鹿児島県の自然の記録として保管し、展示や研究、教育普及等に活用されています。

植物標本のデジタル化

令和3年8月～10月の期間、外壁補修工事のため、本館を臨時休館にしました。その間、普段、主に接客業務等を行っている職員を中心に、植物標本のデジタル化作業を行いました。休館中の3



【標本デジタル化の作業風景】

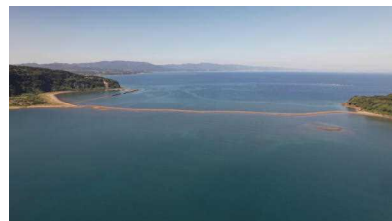
か月で、およそ7,000点の標本をスキャンし、デジタル画像として整理しました。これにより、実物に触れなくても、標本を閲覧できるようになり、標本の劣化や破損リスクを防ぐことができます。また、標本確認の時間・労力が飛躍的に少なくなりますので、より一層、活用しやすくなります。今後はインターネット上への公開作業も進め、研究者にも積極的に利用していただけるようにしていきたいと思ひます。



【植物標本のデジタル画像】

博物館におけるドローンの活用

近年ドローンの高性能化・低価格化が進み、比較的簡単に動画や静止画の空撮が可能になってきました。また、動画投稿サイトにも迫力ある空撮動画が多く掲載され、自治体の広報にも採用されるケースが増えてきました。博物館においても二次資料の作成や展示、教育普及活動での活用が進みつつあります。当館でも今年度よりドローンを用いた資料収集・



展示・教育普及活動を実践していますので、一部を紹介します。

【ドローンによる空撮画像】

ドローンによる空撮の利点は、人間の目線では全体像を把握しづらいほど大きいですが、航空写真では詳細を判読できないほど小さな地形を俯瞰して見ることができ、ホバリングによる長時間撮影や繰り返しの撮影によって、簡単に経時変化を記録できる点にあります。例えば、直径が数十メートルのマール（爆裂火口）や長さ数百メートルのトンボロ（陸繋砂州）等が該当します。今年度は、廃棄物の処分場として埋め立てが決まった指宿市開聞仙田の水無池や、知林ヶ島の砂州を撮影し、短時間の動画に編集した上で、館内のディスプレイで展示を行っています。また、YouTubeの公式チャンネルでも配信しています。さらに撮影した動画を活用して、郷土の自然素材を学ぶ出前授業を行いました。子供たちからは、鳥の目線で見た郷土の自然に歓声が上がっていました。今後も県内の様々な自然素材を科学的視点で撮影し、博物館における資料収集・調査研究・展示・教育普及活動への効果的な活用方法を模索していきたいと思ひます。



【出前授業におけるドローン映像の活用】